

# 計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

## 会報 2008-11

発行日：平成21年1月●日

発行元：計画・交通研究会

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489

E-Mail= jimukyoku@keikaku-kotsu.org

Homepage=http://www.keikaku-kotsu.org/

### 目次

Opinion .....1-2  
新しい時代を創る

News Letters .....2-10  
事業報告・活動報告

Backyard .....11  
事務局通信

## □ Opinion

## 新しい時代を創る

川口有一郎

今年も筆者の初仕事は米国ASSA (Allied Social Science Association) の大会への参加から始まった。昨日は、シンガポールの同僚との共同研究の成果を発表した。米国ASSAは毎年1月3日―5日に米国で開催される社会科学系学会の年次大会である。ASSA大会は経済学会、ファイナンス学会、および不動産学会などの52の学会の研究発表会を一つの街に集めて開催するものである。今年の大会はサンフランシスコで開催された。筆者が所属する米国都市経済学・不動産経済学会はマリオットホテルが会場である。ファイナンス学会も同じホテルで開催されている。経済学会はヒルトンホテル(マリオットから徒歩10分くらい)で開催されている。いずれか一つの学会に所属していればASSA傘下の学会のすべての発表会に参加できる。だから、大変効率がいい。専門の周辺分野の研究のフロンティアも把握できるので、この三日間で仕入れる情報は筆者にとっては大変貴重である。研究発表の他にパネル討論もある(今年の経済学会のパネルは「金融危機」や「今後の世界経済の見通し」などがテーマ)。また、各国の友人や知人と旧交を温める機会としても大変ありがたい。

今年、海外の知人から筆者に対する質問でもっとも多いものは「日本は再び10年を失う

のか？」であった。周知のように現在アメリカ経済が大変なことになっている。例えば、サンフランシスコのサブプライムローンの半分は債務不履行となっている。また、住宅価格は1930年代の落ち込みよりも激しい。去年、米国議会がゾンビ企業(米国大手自動車会社3社)の救済策をめぐる紛糾したことは記憶に新しい。こうした検討を通して明らかになったことは、現在の経済困難に対応するために、米国政府は今後約1000兆円の資金を調達しなければならない。政府の資金調達には3つの方法しかない。借金をするか? 国民から集めるか? (増税)、そして新しいお札を増刷するか? いずれにしても厳しい選択となる。日本ではアメリカの住宅価格は2010年に底を打って回復に向かう、という見方が多い。現地へ来てみるとわかることだが、事はずっと深刻である。

天才であっても経験した事以外のことは分からない。昨年ニューオーリンズで開催されたこの大会でスティグリッツ氏やクルーグマン氏などがサブプライムローン問題について議論していた。そのときに筆者が感じたことは「この人たちはノー天気だな。もっと深刻な問題なのに」という感想であった。日本人はこの18年間に複合不況の脅威をすでに経験しているので、2006年夏に

アメリカの住宅価格がピークを打ったところから「これは大変なことになる」と感じていた人は多いと思う。未経験のアメリカの人にとってはそれがノーベル経済学賞の受賞者であっても実感として目の前にあった危機を感じる事ができなかったのだろう。

今、私たちが直面している経済危機は環境や社会の危機にまで伝染している。そのため、これから世界がどこへ向かっていくのか？誰も明確に答えることができない状況にある。一方、アカデミズムの世界でも大きな変化を感じている。新しい世紀になって、米国の学会で中国やインドなどの新興国出身の若手研究者の活躍がより一層目につくようになった。そこには多様性をバネにして多くの困難を乗り越えてきたアメリカの底力を感じる。

ところで、新しい世紀に変わって約10年。還元主義だけで複雑な生命現象を理解する試みには限界があることが理解され始めた。経済や社会の現象を理解する試みとしてデカルト的な還元主義のアプローチは修正を余儀なくされて

いる。今回の経済危機の諸悪の根源となった証券化やそれを支えた金融技術もすでにその枠組みの中で修正作業が始まっている。例えば、株式市場を原因と結果という切り口で理解する試みには限界があり、市場そのものを複雑系のシステムとして理解しようとする試みなどがその一例である。複雑系のシステムそのものは化学の分野ではすでに70年代にプリゴジンによって紹介されているが、それを現実の投資実務でも具体的に利用しようという試みはまだ始まったばかりである。学問の進化は突然変異によって起こるのではなく、小さな改善の積み重ねがあつて、それがある閾値を超えると相転移のようなことが起きるのだと思う。土木計画学や景観学の誕生も同様であつたと理解している。

筆者にできることは研究や教育の現場において小さな改善を試みることである。それを通じて、新しい時代創りという壮大な事業に微力ながら関わっていただけたいことだと思う。

(以上)

(早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教授)

## □ News Letters

## 事業報告・活動報告 □

### ■現地視察会

【第1日目】

■集合(10月6日 AM 11:00)

常磐線 水戸駅集合。天候は小雨模様。街路樹が紅葉を始めた国道51号線を水戸市内から大洗町へ移動。車中で、今回の視察のスケジュールと目的について筑波大学の岡本先生より下記の説明をいただいた。

◇今回の視察の目的

- ・茨城県では大洗港、常陸那珂港、日立港の3港を統合し、一体的に整備・運営する検討が行われているが、それぞれの港の整備状況と利用状況を視察すること。
- ・福島県南東に位置するいわき市では、“港と町とが一体となったまちづくり”に向けて市民と行政が協働した活動が進められている

が、その状況を視察すること。

- ・日本のレジャー施設の原点である「スパリゾートハワイアンズ(旧常磐ハワイアンセンター)」の概要をヒアリングし、地域観光のあり方を考察すること。

■昼食(PM 12:00)

於：大洗町内割烹旅館「さかなや隠居」

■大洗港視察(PM 13:00)

○特徴

「クルーズ船の就航、充実した海洋レクリエーション施設を有する首都圏フェリーの玄関口」

○港湾施設の概要

[外郭施設] 沖防波堤1300m(整備中)、南防波堤830m

[係留施設] 第1・第2埠頭地区(-5m岸壁)、第3・第4埠頭地区(-8m岸壁)

○ 後背地の民間企業の進出と投資状況

- ・ (株)東京かねふく  
(敷地面積) 1.9ha(建物概要) 工場棟・レストラン棟 (延床面積) 6,507㎡ (創業開始) 2009年9月予定
- ・ (株)ハヶ岳モールマネージメント  
(施設名称) 大洗リゾートアウトレット(敷地面積) 4.6ha(建物概要) アウトレットショッピングセンター (店舗面積) 13,000㎡ (創業開始) 2006年3月 / 現在増床のための土地 0.7haの譲渡契約中

○ 沿革

- ・ 1979年 重要港湾に指定
- ・ 1985年 カーフェリー就航、以後首都圏と北海道を結ぶカーフェリー基地として発展
- ・ 1992年 大型クルーザーが停泊できる公共マリーナが供用開始
- ・ 1995年 第4埠頭が完成し大型客船の接岸が可能となる
- ・ 2006年 リゾートアウトレットモールの完成

○ ご案内：国土交通省 鹿島港湾・空港整備事務所 中島所長(大洗マリンタワーにて)

- ・ 大洗港の取扱貨物量は13百万t/年であるが、ここ10年で約3割増加している。
- ・ 大洗港は、首都圏フェリーの玄関口となっている。大洗港と苫小牧港間の定期航路フェリーは、2便/日で首都圏の渋滞緩和に寄与している。
- ・ 拡張したマリーナは、カジキのトロリング、フィッシングなどの海洋レジャーの拠点として脚光を浴びている。



大洗港の貨物の様子 (大洗マリンタワーから)

■ 常陸那珂港視察 (PM 14:00)

○ 特徴

「高速道路に直結した、大水深岸壁と最新鋭荷役システムを備えた東日本の新しい国際流通拠点」

○ 港湾施設の概要

[外郭施設] 東防波堤6000m(整備中)、北防波堤500m

[係留施設] 北埠頭地区 (-5.5~-14m岸壁)、中央埠頭地区 (-7.5~-15m岸壁：計画)

○ 後背地の民間企業の進出と投資状況

- ・ コマツ茨城工場  
(生産品目) ダンプトラック、ホイールローダー (敷地面積) 1.9ha (建物概要) 工場棟 (雇用人数) 約220人 (創業開始) 2007年1月
- ・ 日立建機常陸那珂臨港工場  
(生産品目) 超大型ショベル(47t~805t) と 鉾山向け超大型ダンプトラック(171t~286t積) を西欧、北米、中国、豪亜に出荷 (敷地面積) 1.8ha(建物概要) 工場棟 (雇用人数) 約250人 (創業開始) 2008年8月

○ 沿革

- ・ 1983年 重要港湾に指定
- ・ 1985年 「常陸那珂国際港湾都市構想」発表
- ・ 1998年~2000年 北埠頭地区内貿、外貿バース供用開始 極東ロシア、韓国へ定期航路、北米、欧州へRORO船航路開設
- ・ 2001年 中央埠頭地区着工
- ・ 2003年 常陸那珂火力発電所本格稼動
- ・ 2004年 北米定期コンテナ航路開設
- ・ 2007年 四国定期コンテナ航路開設



日立建機工場内の視察状況

○ご案内：国土交通省関東地方整備局 鹿島  
港湾・空港整備事務所中島所長（常陸  
那珂港展望台にて）

- ・港の後背地には、コマツ、日立建機の大型建設機械の工場が建設されている。港の近傍に設置することで輸送距離の短縮、輸送制限の緩和、トレーラー台数の削減など輸送コスト、環境負荷の低減に大きなメリットがある。一方、後背地に国営ひたち公園があり、工場用地の拡張に限界がある。



中央埠頭の建設状況（展望台より撮影）

- ・12月の北関東自動車道の開通によって北関東を中心に各地へ直結され、東京湾の過密航路を避ける関東地方の海運の拠点になることが期待される。今後の営業展開が課題である。

#### ■日立港視察（PM 16：00）

##### ○特徴

「北海道と九州を結ぶ海上物流の結節点として、充実した国内定期航路を有する北関東の玄関口」

##### ○沿革

- ・1967年 重要港湾に指定
- ・1984年～85年 九州、四国定期コンテナ航路開設（2006～7年航路廃止）
- ・1986年 東南アジア定期コンテナ航路開設（2005年航路廃止）
- ・1989年 第4埠頭（-12m岸壁）供用開始
- ・1990年 日立港物流センター完成
- ・1993年 釧路港との定期RORO航路開設
- ・2006年 北九州定期RORO航路開設

##### ※RORO航路

Roll On Roll Off Ship（ロールオンロールオフ船）の略で、「乗り込んで、降りる」と言う意味を持ち、船の中にトレーラーが自走して乗り



RORO船 勇王丸9400t(川崎近海汽船(株))

込むことが可能な構造となっており、クレーンを使わずに直接貨物の積み降ろしが出来る船のこと。このため、貨物の大量輸送と荷役作業の効率化が図られ、物流コストを軽減することができる。

##### ○港湾施設の概要

[外郭施設] 沖防波堤900m（整備中）、  
東防波堤2010m

[係留施設] 第1埠頭地区（-7.5～-10m岸壁）、  
第2埠頭地区（-7.5～-9m岸壁）、第3埠頭地区  
（-5m岸壁：計画）、第4埠頭地区（-5～-12m岸壁）、  
第5埠頭地区（-7.5～-12m岸壁）

##### ○後背地の民間企業の進出と投資状況

###### ・ベンツ日立新車整備センター

（生產品目）製品ブラインドは、メルセデス・ベンツ、クライスラーなどの5種で8カ国13工場から輸送され、ここで、外装、内装チェック、オイル漏れ、日本法規に合わせた完成検査を受け、外装保護をした後、全国の販売所に送られる。（敷地面積）6.2ha（建物概要）工場棟・モータープール（延床面積）15,700㎡（創業開始）1991年



日立港第5モータープール

○ご案内：茨城県日立港湾事務所 小林所長  
(第5モータープールにて)

- ・第5モータープールは、面積が43,000㎡、最大1,800台の集積が可能で、セキュリティにも配慮している。排ガス規制などの国内仕様に沿った最終整備は、「日立新車整備センター」で行っている。国内の6割のベンツが日立港から全国の販売所へ送られている。
- ・茨城県背後の高速道路沿線には主要自動車メーカーの工場が立地しており、日立港は自動車の海上輸送基地としてのポテンシャルは高い。北関東自動車道の開通によりさらにその可能性は高まる。

■懇親会 (PM 18:30)

於：「スパリゾートハワイアンズ」

【第2日目】

天候は曇り。朝食後、施設内の見学

■スパリゾートハワイアンズ説明会 (AM 9:30)

ご説明：常磐興産 企画センターマネージャー  
関根氏

○「炭鉱」から生まれた「レジャー産業」  
常磐炭鉱の回生の道を「観光産業」に求め全社を挙げて「新プロジェクト」に取り組み、1966年、常磐ハワイアンセンターをオープンさせた。

○設立コンセプト

- ・健全な観光地の創造
- ・大衆企画で幅広い集客(ターゲットは3世代、年収300万円~600万円層)
- ・売り物は、「温泉」「熱帯樹」「フラダンス」
- ・地域社会との共存共栄が前提の事業とすること。

○現状と今後の課題

- ・いわき市の現状は、観光資源はあるが「観光産業」が主体であり、しかも広域のため「点」となっている。



スパリゾートハワイアンズでの説明

⇒人とのふれあいが求められる中での住民参加型の「着地型商品」づくりと観光地を繋ぐだけではない、広域に連携した「二次交通」のしくみづくりが急務である⇒観光交流人口2000万人を目指したい

■小名浜港視察 (AM 11:00)

○特徴

「魅力あるウォーターフロントを創出する親水緑地空間を合わせ持った南東北の国内・国外の物流拠点港湾」

○沿革

- ・1951年 重要港湾指定
- ・1957年~1970年 1号~4号埠頭完成
- ・1977年 沖防波堤着工
- ・1987年 大剣コンテナ埠頭供用開始
- ・1997年 「いわき・ら・ら・ミュウ」オープン
- ・2000年 「アクアマリンふくしま」オープン
- ・2004年 5・6号埠頭全面供用開始

○港湾施設の概要

[外郭施設]沖防波堤1959m(整備中)、第2沖防波堤860m(整備中)、西防波堤(第一)2270m、西防波堤(第二)2050m

[係留施設]1号埠頭(-4.5~-9m岸壁:整備中)、2号埠頭(-7.5m岸壁)、3号埠頭(-10m岸壁)、4号埠頭(-6~-10m岸壁)、5号埠頭(-4.5~-12m岸壁)、6号埠頭(-14m岸壁)、7号埠頭(-7.5~-13m岸壁)、藤原埠頭(-10~-12m岸壁)、大剣埠頭(-7.5~-10m岸壁)

○周辺の観光施設

- ・いわきサンマリーナ
- ・マリーナ施設、海釣り桟橋、海水浴場、緑地公園

○ご案内：国土交通省関東地方整備局 小名浜港湾事務所加藤所長(三崎公園 三崎潮見台にて)



三崎公園展望台より小名浜港の眺望

- ・小名浜港は幕府の代官所が設けられ、納付米の江戸向積み出しにより港の基礎が築かれた。その後、常磐炭鉱の石炭の積み出し港として発達し、戦後は、重化学工業を中心とした臨海工業地帯の産業基盤となる物流拠点港湾として整備がされてきた。2004年に-14mと-12m岸壁を有する5・6号埠頭が全面供用開始となり、埠頭の機能を高めるため防波堤整備も順次行われている。

○ご案内：福島県小名浜港湾建設事務所 相沢 所長（アクアマリンパーク内小名浜潮目交流館にて）

- ・アクアマリンふくしま

（概要）太平洋の「潮目」をテーマにした海洋ミュージアム（規模）地上4階、高さ34m、建設面積8,815㎡、延床面積13,714㎡総水量3,990t（事業主体）（財）ふくしま海洋科学館（運営開始）2000年7月

- ・いわき・ら・ら・ミュウ

（概要）魚介類、民芸品を扱う観光物産センター（事業主体）第三セクター：いわき市観光物産センター（運営開始）1997年7月

- ・その他の施設

親水テラス、親水ガーデン、プロムナード、シーサイドデッキ、サンセットピアパークなど

■昼食（PM 12：00）

於：小名浜美食ホテル「舷」

■意見交換会（PM 13：30）

於：いわき・ら・ら・ミュウ会議室

○小名浜まちづくり市民会議 鈴木氏

- ・平成12年、いわき青年商工会議所のメンバーを中心に、市民参加型のまちづくり組織として市民会議を設立した。

- ・平成13年に「港とまちが一体となったまちづくり」をテーマに「港まちおなはまのグランドデザイン」を策定した。

- ・平成14年には、いわき市との間に「まちづくりパートナーシップ協定」を結び、地区計画の基となる市民提案として、小名浜～いわき線の拡幅と景観規制など具体的な基本計画とアクションプランをまとめた。

- ・アクアマリンパークの管理運営についても県と協定を結び官民協働で行っている。飲食店舗については夜間の賑わいを創出することが課題となっている。

- ・まちと港を分断している要因となっている小名浜港背後地のJR貨物駅周辺の11.7haは、土地区画整理事業として再整備を計画している。デベロッパーの参画を期待しているが、条件とインセンティブの整理が必要である。

■解散（PM 15：00）

常磐線「泉駅」

■おわりに

北関東地域の物流の東京湾依存の解消と地場産業と港湾立地企業の競争力維持と向上のために、国、県、企業が永年の努力を継続していることについて認識を深めた視察会であった。

文責：三井不動産(株) 開発企画部 小友剛



アクアマリンパークふくしま

## ■2008年9月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅷ講・第6回)

●日時：平成20年9月10日(水)17:00~20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生

観光原論研究(4) 観光の概念

②(株)オフィス・ネオ 主任 高橋 章 氏

中国瀋陽市の公園整備と地下空間利用計画

●参加者：14名(うち計交研関係5名)

〔講義概要〕

### ◆観光原論研究・4◆(鈴木忠義)

原論では大もとのことをきちんと詰めておく  
必要があり、その観点から以前に示した目次を  
見直し細部の構成を再検討していく。

第1章の目次は、以下のようである。

#### 1. 観光の概念

##### 1.1 論理仮説として 観光

(1)現象論・・＜仮説として 観光＞

(2)観光の成立とその構成

(3)観光の三主体とそれぞれの5要素

(主体・目的・対象・手段・構成)

(4)観光の多様性と種類と特徴

(5)観光の成長 質と量

(6)産業としての観光(ツーリズム)

(7)職能としての観光人とその養成

##### 1.2 結論 観光とは

#### 1.1 論理仮説として 観光(観光とはこうゆう ものだろう、として論を進める)

今日、どこの自治体、どこの地域、どこの国  
でも観光への認識は高い。しかし、この認識は  
“観光経済”を中心としたものである。

地球レベルでの生産性の向上と流通性が様々  
な格差を発生しているものの、曲がりなりにも、  
人々の生存を続けさせている。生存の手段が進  
めば、人間一人ひとりの“人生の目的”が追求  
される。そのことが、本来的な観光の認識につ  
ながると考える。

#### (1)現象論 旅・旅行・遊び・休養・

・・・＜仮説として 観光＞

観光は成長し、概念も変化する。誰も歴史的  
な変化を整理しておらず、今日では、誰もこの  
概念を語れない。本論は、それに挑戦しようと  
するものである。

鉄道の発達に伴って、保養、静養、逗留、転  
地療養等の場として軽井沢、箱根、那須などの  
リゾート地が開発されていった。この例でも、

観光の概念の難しさが示される。

文明が進歩し、地球環境が変化しても24時間  
という時間は変わらない。人生にとってのこの  
時間の意味を考えていく必要がある。

採取、物々交換、交易、探検などから、現在  
のバーチャルな娯楽まで様々な形態がみられる。  
目的的な交通(乗ることが目的)は観光だけで、  
他の交通は“手段”である。

#### (2)観光の成立とその構成

観光は、人がその場所を実際に訪れて滞留・  
滞在し帰ることで成立する。人が訪れることに  
より、“もの”と“かね”が流れて経済効果が  
生まれる。人が訪れなければ成立しないのであり、  
訪れる魅力が不可欠である。

訪れることに関して、「馴染み客」が重要である。  
奥座敷と呼ばれる温泉郷は馴染み客で成立し、  
TDLにも多くの馴染み客がいる。

### ◆報告(フォーラム当て2008)・4◆(高橋章)

#### ○中国瀋陽市の公園整備と地下空間利用計画

2007年9月より、急激な経済発展の途上である  
中国の瀋陽市(常住人口約750万人、実数900~  
1000万人程度)の中心市街地の和平区(満州国  
時代の大和区、約65万人)を対象にした地下空  
間活用計画の策定と中山公園整備計画の見直し  
業務に携わった。

プロジェクトは日本の技術者が中心に進め  
られ、中山公園の計画見直しについては造園関係  
技術者グループが担当した。地下空間については、  
クライアントの意向により、日本国内に諮問  
委員会を組織するとともに、大手設計会社が技術  
指導を行う体制で取り組んだ。

着手から1年、中山公園はオリンピック開催  
直前に概整し、地下空間開発については基本計画  
の取りまとめが完了したもので、それらの概要  
を報告した。

〔報告目次〕

1. 計画対象の瀋陽市及び和平区の概要
2. 中山公園の改修整備の概要
3. 地下空間利用計画の概要

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

## ■2008年9月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅷ講・第7回)

●日時：平成20年9月25日(木)17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生

観光原論研究(5) 観光の概念(つづき)

②(株)野倉計画事務所 野倉 淳 氏

観光庁・観光関連大学の動向

●参加者：15名(うち計交研関係6名)

〔講義概要〕

### ◆観光原論研究・5◆(鈴木忠義)

前回からの続きとして、「1.4観光の多様性と種類と特徴」と「1.5 観光の成長」について解説した。(1.3は後日とする。)

#### 1. 論理仮説として 観光

##### 1.4 観光の多様性と種類と特徴

観光は、非日常的な感動を求めて出かける行動である。この感動は、単なる満足ではなく、満足を越えた充実感があり、わざわざ出かけて行くだけの価値があるものである。

感動は、関係する要素によって次式で表すことができる。

$$i = mR + pC + s$$

この式が示すように、感動は一人ひとりの興味と感性により異なり、それが多様性となる。観光によって感動を得る能力は教養と同様で、判断力のもとになる。例えば、この能力を養うことができる修学旅行にすべきだ。

観光の種類と特徴については、経済(交易)、権力(統治)、理論(遊学)、審美(探美)、宗教(巡礼)、享楽(遊楽)というように生きがい対象との関係などで示しており、第1章の結論で再整理したいと考える。

##### 1.5 観光の成長

###### (1) 第一主体(観光者)の増加(マス・レジャー)

平安貴族の熊野参詣、欧州の王侯貴族の避暑・避寒など、古くは、旅は特権階級のものであったが、大衆化社会になって観光が近代化した。鉄道が人を運ぶようになって団体旅行が生まれ、マス・レジャーが拡大した。

我が国のスポーツの普及も同様で、恵まれた

階層であった大学生から始まって大衆化していった。

###### (2) 高齢社会

高齢者が増加しているなかで、生存と生きがい対策をどのように国土政策に盛り込むかが重要だ。旅行や交流は、生きがいの対象として不可欠である。

###### (3) 文明の進化 時間と空間

文明の進化により、交通、宿泊等の手段が発達し、モビリティが拡大している。例えば、新婚旅行の目的地は時代とともに国内から海外へと変化してきたが、これは交通の発展と料金の低廉化が可能にした。

###### (4) 経済の拡大 所得と余暇の増大

経済の拡大は、人々に所得と余暇の増大をもたらす。その結果、観光需要が拡大する。

現在の我が国は、所得や労働時間に偏りがあり、余暇の楽しみ方も上手くない。まだまだ途上国である。

###### (5) 観光産業の成長

観光需要が増大し、観光産業が成長する。

一般的に言われるツーリズムは、観光経済が中心のようであるが、ここまで述べたような観光者の観点、社会・経済の観点を踏まえて考えていく必要がある。

### ◆情報提供◆(野倉淳)

2008年10月1日より国土交通省に観光庁が設置されることを機に、観光庁の概要と、国立大学における観光関連学科・専攻の設置に関する資料を提供した。

観光庁は総合政策局の観光関連各課を再編したもので、“国を挙げて観光立国を推進していることを世界に発信”し、“関係省庁への調整・働きかけを強力に行う”としている。

観光に関する国の体制充実とともに、観光関連大学(学部・学科・大学院)の整備も進んでいる。国立大学でも2005年以降に、琉球大学・観光科学科、山口大学・観光政策学科、和歌山大学・観光経営学科、北海道大学大学院・観光創造専攻が開設されている。

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)



## ■2008年10月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅷ講・第8回)

●日時：平成20年10月8日(水)17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生

特別講義 「私家版 鈴木忠義先生の言葉  
巻一 巻二 巻三」の発刊について

②(財)日本交通公社 研究主幹 岩佐吉郎 氏

顧客満足度調査「CS-t」

●参加者：15名(うち計交研関係7名)

[講義概要]

### ◆特別講義3◆(鈴木忠義)

「私家版 鈴木忠義先生の言葉 巻一 巻二 巻三」が有志の方々により編集・発刊されたので、その経緯等について解説した。

私は、学業を終えて以来、70歳の定年を迎えるまで、学科・学部・大学を転々として教師を務めてきた。大学は研究と教育を目的とするところで、研究は観光研究とし、その手段として景観、効果として観光者の感動、地域の振興、観光産業(観光者、地域、産業の三主体)を考えてきた。

一方、教育については、学生や研究者たちとの交流を大切にしてきた。中年より酒をたしなみ、酒を飲んで歓談する(ギリシャ語でシンポジウム)ことを実践してきた。その折、学生・研究者の中で、印象に残った言葉を集める人たちがおり、それを私の年齢の節目に小冊子にして仲間たちに配布していた。

今年、私は“年男”(x歳)で、9月20日に誕生日を迎えた。それを機としてこの冊子を作製してくれたものである。製作・取りまとめなどに参加された方々に深く感謝とお礼を申し上げる。

冊子の中には、戦後の婦人参政権や農地解放に問題があると指摘したものがある。一行見出しのような文章だけで解説はなく、誤解を招くかも知れないが、“はてな”と思って頂ければ結構である。

もう一つの例で、「出来の良し悪しは素人でもわかる。なぜいいのか。どうすればよくなるのか、

それを見抜くのがプロだ。プロはつらいよ。」というのがある。これは、人を育てる際には、駄目なところを指摘するだけでは駄目で、優れた所を見つけて伸ばしてやるのが重要だ(だから教師はつらい)ということで、学(知識)に術(技)が伴うことの重要性を指摘したものである。

このように、一つ一つの言葉には、おやと思うものも少なくないであろうが、読まれた方はいつでも質問して頂ければ、お答えしたいと思う。

### ◆報告(フォーラム当て2008)・5◆(岩佐吉郎)

縮小する観光市場においては、リピーターが欠かせなくて、リピーターを確保するためには満足度を向上させる必要がある。従来観光統計では、「量(観光客数)」に焦点が当てられてきましたが、これからの観光統計では「質(満足度)」の調査が不可欠ではないか?

(財)日本交通公社では、ここ数年、観光地の顧客満足度の調査を研究して、2006年からは全国59地域の観光地を対象にして、満足度に関するマーケティング調査を実施してきた。その調査結果から幾つかを紹介した。

[報告目次]

1. 観光の動向はどうか
2. (超)供給過剰社会の到来
3. JTBFが行った全国「CS-t」調査より  
～温泉地をケースとして～
4. 全国CS調査から得られたもう一つの結果  
～平均では解からない～
5. まとめ
  - ①自地域にどのような観光客が訪れているのかを測定する
  - ②自地域がどのようなCS構造になっているかを分析する
  - ③自地域が目指すべきターゲット顧客を意識する
  - ④ターゲット顧客の満足度向上に努める
  - ⑤ターゲット顧客の地域におけるボリューム(構成割合)の向上に努める

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

■お詫び

ひとえに事務局の勝手により、本号の発行が大幅に遅れ、会員の皆様にご迷惑をかけたこと、深くお詫び申し上げます。すでに次号発行の時期になっておりますので、キャッチアップすべく努めてまいります。

■原稿の募集

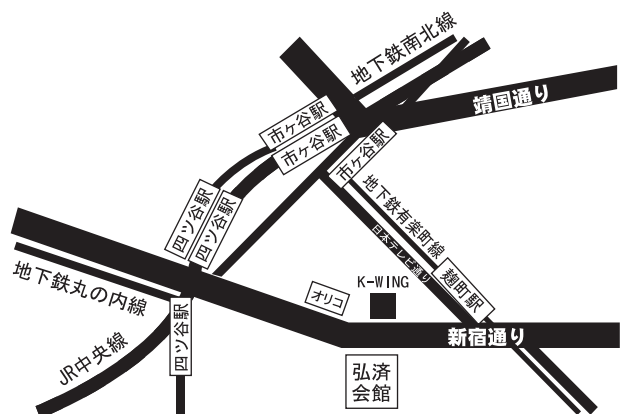
会報には、Opinion、事業報告・活動報告が掲載されておりますが、会員による下記のような関連する活動も会員相互の情報交換のため紹介いたします。当研究会のホームページのほうが迅速性、費用面で効率的であります。印刷物のほうが効果的な場合は会報での掲載もいたします。

- ・ 報告書、本、等の刊行紹介
- ・ 海外研修、国際会議参加の概要
- ・ 研究会、催事の紹介

計画・交通研究会

会長	森地 茂
副会長	石田 東生
副会長	家田 仁
副会長	屋井 鉄夫
事務局長	水野 高信
会報編集委員長	中井 祐

〒102-0083  
 東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F  
 TEL=03-3265-1774  
 FAX=03-3221-5489  
 Homepage =  
<http://www.keikaku-kotsu.org/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分  
 弘済会館前の大きなビル（オリコ）の右隣、1階にドラッグストア（クスリ）の入った小さなビル。